

群馬県介護テクノロジー導入 モデル事業事例発表

令和7年7月7日

社会福祉法人マグノリアニセン

施設紹介

- 所在地は高崎市乗附町
（高崎市西部）
- 観音山の麓
- 碓氷川のほとり

< 経営理念 >

最高の福祉サービスによる
心安らぐ生活の提供



運営事業

- 特別養護老人ホームシェステさとの花（従来型）
- 特別養護老人ホームシェステさとの花
別邸陽・別邸紫（ユニット型）
- デイサービスセンターさとの花
- ケアサポートセンターさとの花
（小規模多機能型居宅介護事業所）
- グループホームさとの花
- 居宅介護支援センターさとの花
- あんしんセンターさとの花



ケアサポートセンターさとの花



グループホームさとの花

取組紹介

- ISO9001:2015品質マネジメントシステム認証取得
- 魅力ある職場づくりプロジェクト（独自）
- ぐんま介護人材育成認証制度 第1号認証
- 群馬県いきいきGカンパニーゴールド認証
- 健康経営優良法人ブライト500認定



さとの花介護テクノロジー導入経緯

- 2018年検討開始
- 2019年メーカー担当者からの説明。導入施設見学
～コロナ禍となり検討中断～
- 2020年検討再開
- 2021年介護記録ソフト＋タブレット導入（特養・デイ・居宅）
- 2022年ナースコールと介護記録ソフト連動のためのLAN工事
- 2023年iPhone購入（ナースコール・介護記録ソフトとの連動）
- 2024年見守り機器＋インカム＋自動体交マットレス＋排泄予測
機器（群馬県介護テクノロジー導入モデル事業）

介護テクノロジー導入のポイント

- ①スタッフに思いを伝える
- ②導入後できること（理想像）をイメージする
- ③プロジェクトを立ち上げる。中心的に推進するメンバーを決める
- ④成功事例／導入施設を見に行く
- ⑤できることから始める

機器選定のポイント

- ①本当に困っていることを解決してくれる機器を選定
- ②拡張性が高く、使い勝手のよいものを選定
- ③**機器選定は現場スタッフに任せる**

今回の介護テクノロジー導入の概要

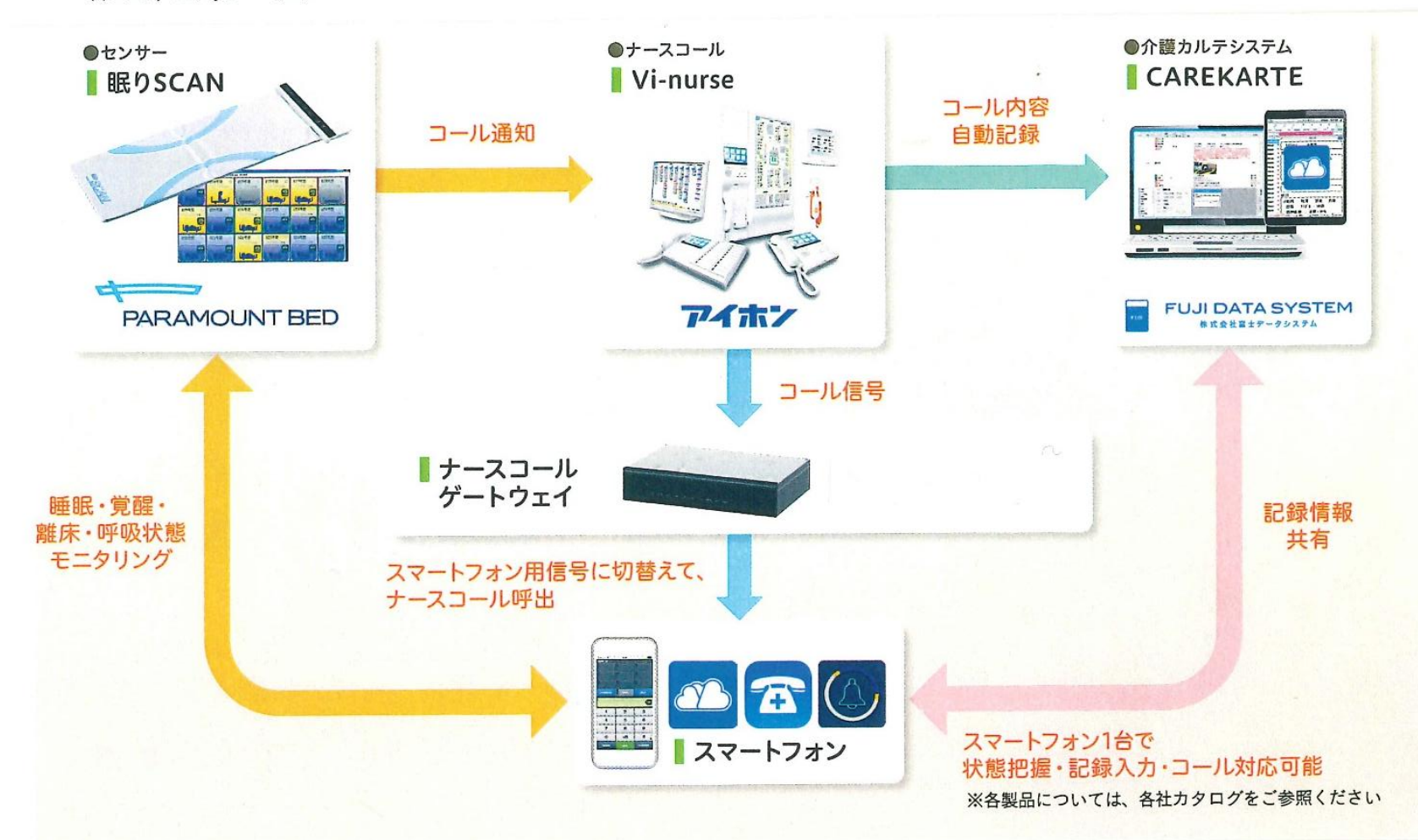
見守りシステムの導入を中心に
その他課題解決に必要なテクノロジー
を活用し、可能なものは
連動させ、より効果的・効率的
なシステムを構築する。

介護テクノロジー導入により達成したい目標

- ①夜間見守りのための定期巡視をなくし、スタッフの身体的、心理的負担を軽減する。更に得られた時間を活用しより必要なご利用者様に手厚いケアを提供する。
- ②事故を未然に防ぐ、もしくは起きてしまった事故を原因分析し、適切かつ効果的なケアを提供することで居室での事故を減らす
- ③睡眠サイクルと排泄サイクルを把握し、自立支援・個別ケアを充実させる。
- ④重度化及び体格のよい利用者の褥瘡を予防し、スタッフの身体的負担の軽減を図る
- ⑤記録時間を削減し、転記ミスをなくし、作業効率化を図り、直接ケアの時間を増やす

導入システム（機器）イメージ

<システムイメージ>



導入機器一覧

※赤字が今回のモデル事業対象機器

事業所	介護ソフト	入力機器	情報伝達機器	見守り機器	その他
従来型特養	ケアカルテ	タブレット4台 iPhone 6台 PC 5台	PHS 6台 (iPhone6台) インカム8台	カメラ型60台 センサー型5台	自動体交支援 マットレス5台
ユニット型特養	ケアカルテ	タブレット4台 iPhone 6台 PC 4台	PHS 6台 (iPhone6台) インカム2台	センサー型 40台 カメラ型6台	排泄予測機器 1台
デイサービス	ケアカルテ	タブレット1台 PC 2台	—	—	—
居宅介護支援	ケアカルテ	PC 3台	—	—	—
小規模多機能	クイックケア	タブレット1台 PC 2台	—	—	—
グループホーム	クイックケア	タブレット1台 PC 1台	—	—	—
あんしんセンター	クイックケア	PC 2台	—	—	—

システム構築に関わる工事

- ①電話主装置工事
- ②無線LAN工事
- ③インターネット回線工事
- ④ナースコール改修工事
- ⑤ナースコール／介護ソフト連動工事
- ⑥見守りカメラ取付工事

※工事は費用も時間もかかるので計画的に！

介護記録ソフト

日常記録管理 | 特別養護老人ホーム 新富士苑 | 2018/03/27 | 1日 | 00:00~翌00:00 終日① | 最新表示 | 全保存 | 印刷 | ?

ホーム | 在室状況 | **記録一覧** | チェックシート | 排泄チェックシート | 申し送り一覧 | 業務日報 | (24H)日課表 | (24H)モニタリング | (2表)モニタリング

利用者 職員 | タイトルフィルタ | ☒ 居室順 ☐ 氏名順 | ☒ 居室行 ☒ 合計行 | ☒ 個人記録 ☐ グループ記録 ☐ 申し送りのみ | 表示フィルタ | 表示設定

氏名	開始	終了	タイトル	食事 主 副	水分	排泄 尿 便	バイタル 体温 血圧 脈拍	入浴	記録内容	記録者
愛知一美 T15.12.08 (91)										
愛知一美	12:30	未定	長 長期							説明職員
合計				0 0	0 0 0					
愛知太郎 S15.01.01 (78)										
愛知太郎	10:30	未定	長 長期							説明職員
合計				0 0	0 0 0					
静岡九郎 S20.01.01 (73)										
静岡九郎	09:00	未定	長 長期							説明職員
合計				0 0	0 0 0					
大阪一太郎 T15.02.07 (92)										
大阪一太郎	10:00	未定	予 予防短期							静岡一郎
合計				0 0	0 0 0					
三重六郎 H13.01.25 (17)										
三重六郎	17:57	未定	長 長期							FDS-サポート スタッフ

16名

食事 排泄 清潔入浴 測定 看護 服薬 受診 巡回 機能訓練 レク

対象: ☐ 氏名不詳
 開始: / / : :
 終了: / / : :
 実施者: ☐ 申し送り
 ユニット: ☐ サマリー
 記録者:

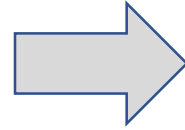
総合一覧 | 総合グラフ | 温度板 | 相關グラフ | 体重グラフ | 排泄注意者 | 入浴実施表 | 個別訓練実施表



導入効果（介護記録ソフト）

<導入前>

- ・ 記録の転記作業が多い
- ・ 日本人のみが記録担当
- ・ 個性的な筆跡は読みにくい
- ・ 記録と画像の別管理
- ・ 記録の検索に時間がかかる



<導入後>

- ・ 紙媒体 70%削減
記録時間 20%削減
- ・ 外国人スタッフも可能
- ・ 活字は誰でも読みやすい
- ・ データ一括管理。検索が早い
どこでも検索可能

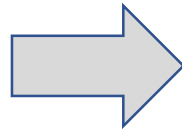
iPhoneナースコール連動



導入効果（iPhoneナースコール連動）

<導入前>

- ・ 少数スタッフへ負担集中
- ・ 事故発生と記録のタイムラグ
- ・ PHSとiPhone2台所持



<導入後>

- ・ 多数スタッフへ負担分散
- ・ その場で入力かつ、写真に残せる
- ・ 1台で全ての機能
(情報把握・記録・コール対応)

見守りシステム (センサータイプ：眠りスキャン)



マットレスの下に設置



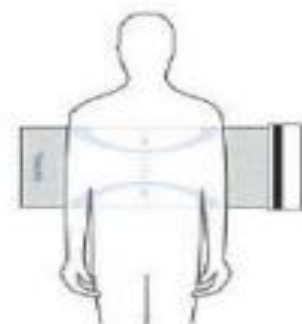
固定用フック



センサー部



ケース部
(乗り降りしない側に)



胸の下あたりに敷きこむ

≡ 04月20日 (木) 13:04

タイル

日誌

リスト

1、2階

管理者アカウント kanri

101-1
利用者一郎

❤️ 56 🌿 13

🕒 >60分 📶 0° 📶 -50dBm

102-1
利用者二郎

❤️ 68 🌿 14

🕒 20分 📶 27° 📶 -50dBm

103-1
利用者三郎

❤️ 54 🌿 13

🕒 >60分 📶 0° 📶 -50dBm

103-2
利用者四郎

❤️ 57 🌿 14

🕒 9秒 📶 45° 📶 -50dBm

103-3
利用者五郎

❤️ 51 🌿 11

🕒 9分 📶 0° 📶 -50dBm

105-1
利用者六郎

❤️ 65 🌿 15

🕒 >60分 📶 0° 📶 -50dBm

105-2
利用者七郎

❤️ 78 🌿 17

🕒 7分 📶 0° 📶 -50dBm

105-3
利用者八郎

❤️ -- 🌿 --

🕒 7分 📶 0° 📶 -50dBm

106-1
利用者九郎

❤️ -- 🌿 --

🕒 -- 📶 0° 📶 -50dBm

107-1
利用者十郎

❤️ 62 🌿 11

108-1
利用者十一郎

❤️ 65 🌿 14

110-1
利用者十二郎

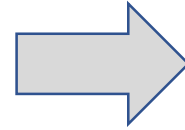
❤️ 62 🌿 11



導入効果（眠りスキャン）

<導入前>

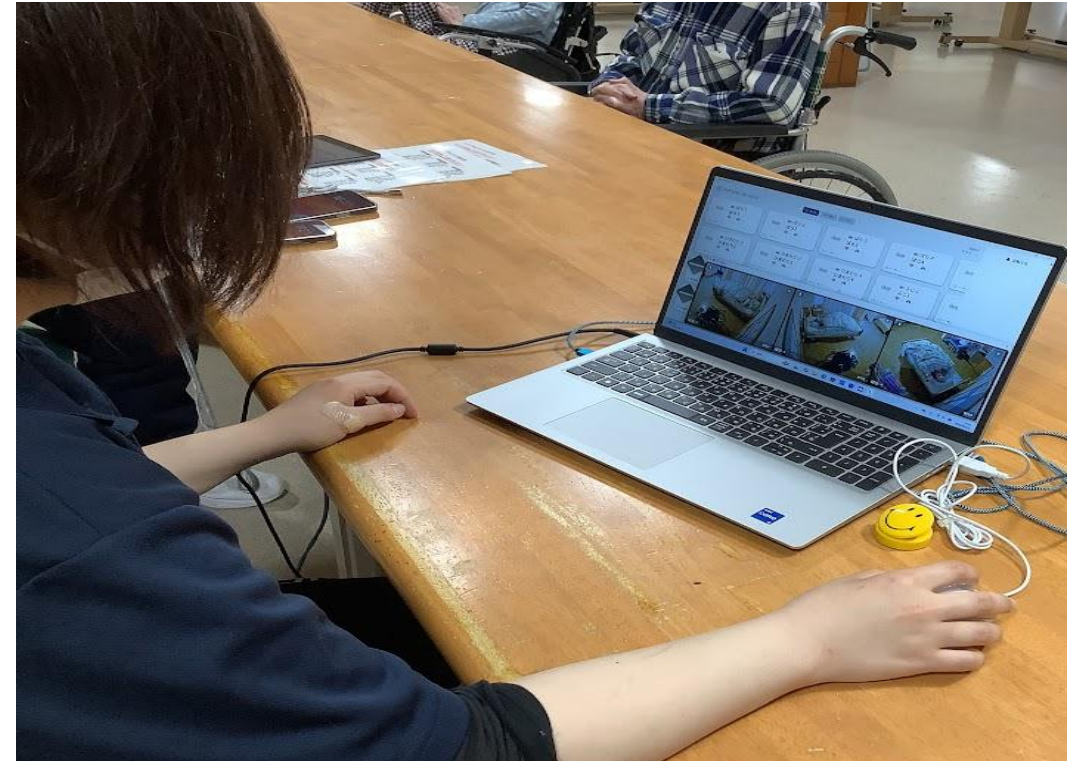
- ・ 夜間訪室（巡視のみ） 1 回/時間
- ・ 離床センサー反応 190回/週
- ・ 転倒注意者リビング見守り後
22時就寝
- ・ ターミナルケアの方へのまめな巡視



<導入後>

- ・ 訪室時間 60分削減
- ・ 訪室回数 半減
- ・ 19時就寝可能
- ・ 通知機能によりスタッフ
の精神的負担減

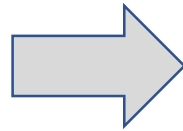
見守りシステム (カメラタイプ：眠りスキャンeye)



導入効果（眠りスキャンeye）

<導入前>

- ・ 夜間、ケアを伴わない巡視のためだけの時間がある
- ・ 見えない不安
- ・ 事故への「〇〇だろう」対策



<導入後>

- ・ 夜間巡視時間15分削減
（特に上下フロアの巡視）
- ・ 映像を見ながら優先順位
の決定
- ・ 録画機能により原因の明確化（対策や家族への説明に効果あり）

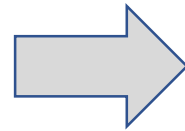
インカム



導入効果（インカム）

<導入前>

- ・ ナースコールや電話呼び出し時
スタッフを探しに行くもしくは
大声を出す
- ・ PHSは1対1のやりとり
- ・ 申し送りのためケアを中断
して集まる



<導入後>

- ・ 探す時間削減 30秒～2分
- ・ その場を離れなくてもいい
待たせないケア
- ・ 同時に複数人で情報共有
できる
- ・ 業務しながら申し送り

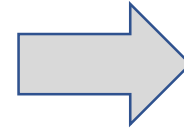
全自動体位交換マットレス



効果（全自動体位交換マットレス）

<導入前>

- ・ 2 時間毎の体交で安眠できない
- ・ オムツ交換（約25人）平均66分
- ・ 重度褥瘡（3ヶ所）の方
（入居時持込み）
- ・ スタッフの腰痛／肘痛などの不調



<導入後>

- ・ 4時間毎で可。安眠確保
- ・ 平均53分
- ・ 2ヶ所治癒 1ヶ所2 c m縮小
（使用者の皮膚状態は良好）
- ・ 身体的負担減少の実感

排泄予測機器 (Dfree)



結果

- DFreeの装着により、膀胱の状態を可視化することにつながった
 - 排尿後も膀胱内に尿のたまった状態が続いている傾向あり

提案

- 排尿傾向分析結果を目安に、可能な範囲でおむつ交換時間を調整する
- 排泄ケアの際に腹圧をかけやすくすることで排尿を促す（P.27~28参照）

2025/01/16 09:42

~ 2025/01/17 11:54



分析結果

- 尿がたまっている傾向のみられた時間帯（トイレ誘導）：9時、12時半、（17時半、21時）、0時半頃
- 排尿傾向のみられた時間帯（おむつ交換）：16時半、（20時、22時半）、2時半頃
- 9時～13時頃まで尿のたまり具合が強く、その後は落ち着き、再び23時半頃からたまり具合が強まる傾向あり

提案

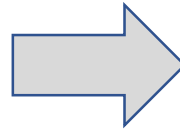
- 0時のおむつ交換後に排尿している可能性があるため、交換時間を【2時半頃】に後ろ倒しすると起床時の全更衣を防げるかもしれない
- もし可能であれば0時のおむつ交換を22時台と2時台の2回に分散する（21時頃にもたまり具合がやや強まり、その後排尿の可能性があるため）



導入効果（排泄予測機器）

<導入前>

- ・ 午前1時のパット交換
- ・ 1週間で7回の尿漏れ、更衣



<導入後>

- ・ データから22時、2時のパット交換へ変更
- ・ 尿漏れは1週間で1回のみ
- ・ 1週間で60分削減
- ・ 利用者の更衣負担軽減

※導入効果が高そうな利用者を選定して試用した結果です。

スタッフの声

<ベテランスタッフ>

「昔は何をするにも動き回っていたが、モニターやインカムなど遠隔でできることが増えて、働き方がスマートになった」

「カメラを導入したことで、介護技術を見直すきっかけになった。教育の場面でも活用できていることはうれしい誤算だった」

「プライバシーの観点からもっと反発があると思っていたが、本人や家族、見学者からは好意的な意見をもらえている」

<若手スタッフ>

「転倒リスクの高い方に居室にカメラを設置したことにより、他の方のコール対応している時でも様子が確認でき、落ち着いて対処できるようになった」

「ターミナルケアを行っている方の呼吸や心拍など通知機能があることで異常時の早期発見につながった」

「睡眠のデータがとれるようになり、よく眠れているのか、眠れていないのかデータ収集がしやすくなった」

<シニア世代スタッフ>

「新しいことへの挑戦に不安はあったが触れてみたらできた。今も若い子たちに協力してもらうことはあるが、以前よりも日常の会話が増えたように感じる」

<外国人スタッフ>

「手書きは読みにくかった。情報収集がやりやすくなった」

「ご利用者様の記録など任せてもらえることが増えてうれしい」

「改善された」と100%のスタッフが回答

課題

- カメラ導入後、事故原因の明確化が進んでいる。今後は**事故そのものを減少**させていけるよう**データを活用**していく。
- Wi-Fi環境による業務への影響は大きい。不意に使えないなどのリスクを避けるために**ネット環境の整備**は慎重に行っていく。
- 必ず身に付ける、使用後は充電する、消毒する、置き忘れないなど、**使用上のルール**はしっかり**徹底**していく。
- 高価な機器ゆえ、**不注意による破損**などには十分に注意が必要。取り扱いについては**定期的に勉強会**を行って行く。
- 便利になったと満足せず、現状の業務内容を分析し、利用者と**直接関わる時間**をもっと**増やしていく**。

まとめ

- 事業所毎に機器選定を任せてもらえたため欲しいものが導入でき、導入後は目に見える形で効果が表れたため、全スタッフが介護テクノロジー導入を肯定的に捉えることができた。
- 新しいことをするには時間も労力も費やすがそれ以上にワクワクする気持ちのほうが強かった。
- 導入前に想定していた以上の効果を得ることができた。
- ご家族様に実際に機器を見てもらいながら説明すると、とても好評で、興味を持って下さる方が多かった。
- 今後は得られたデータを分析し、より質の高いケアの提供ができるよう取り組んでいく。